

地域おこしを始める前に必要な気持ちの準備研究

佐藤 恒平（地域振興サポート会社 まよひが企画 地域おこし協力隊 OB）

Keyword：地域おこし協力隊 事前研修 地域課題の発生原因

【背景・問題・目的】

総務省の制度である地域おこし協力隊は、現在、2,600名以上の隊員（平成 27 年度）が全国で地域活性化活動を行っている。多様な技能や知識、前職の経験をもった人材が、この制度を活用して地域に移住している。任期満了者の6割が定住している一方で、受入れ側とのミスマッチにより、活動を断念するケースも散見されている。

総務省では、地域住民・自治体と協働で活動できる人材の育成を目指して、隊員を対象に初任者研修・ステップアップ研修を主催。また、独立のためのビジネス起業研修会（主催・JOIN）などを行っている。

ただし、任地でのミスマッチを減らし、任期（協力隊の最長任期は3年）内でより効果的に活動して行くためには、着任前からの研修が必要と考えられる。

本研究では、この地域おこしをはじめる前に必要な気構えを「気持ちの準備」と呼称。自身が主催する気持ちの準備研修会を実証実験とし、厳しい現場でも活性化の取り組みを行える人材づくりに、気持ちの準備がいかに必要なあるかを考察する。

【研究方法・研究内容】

研究は現在の会社所在地である山形県朝日町での研修会の実施による実証実験と、参加者のアンケート、終了後の各自の活動への自己評価によって検証した。

研修は平成28年2月15日～21日まで無料で開催。効果測定を迅速に行うため、同年4月より地域活性化業務に携わる社会人限定で募集。（参加者7名）

これから地域に入って活動する人が、少しでも逞しく頑張れるように、気持ちの準備ができる研修を謳い文句とし、「まちおこし前夜の気持ちの準備研修（以下・前夜研修）」として実施した。

前夜研修の特徴は以下の通り、

- ① 研修は基本的に講話の聴講で、毎日テーマを設け、複数の関係住民からのテーマに沿った講話を聞く。
- ② 参加者は、複数の関係者からの話を聞いた後、参加者のみで地域課題の発生原因を話し合う。
- ③ ここで学んだからといって、朝日町で活動する必要はなく、他地域の活性化活動で役立ててもらおう。

地域振興を求める地方に必ず存在する「課題」の発生原因を参加者で考察・創造する目線を養い、全国のどの地域でも活動できる人材の育成するカリキュラム内容とした。

終了後の参加者は地域おこし協力隊をはじめ、全国各地の地域活性化の業務に携わり、都度近況を報告。

【研究・調査・分析結果】

研修における各講話者は、それぞれの頑張っている事業内容、工夫している点、思い描く未来展望などを話し、参加者は個々の話に大変共感を得ていた。

しかし、いくつもの講話を並べてみると、そこには方向性の違いや、対立構造があり、地域の課題とは「頑張る人たちの活動の間」（相互の活動の不理解）に生まれる事が、研修参加者の考察結果となった。頑張る人たち個々の応援よりも、相互理解を手助けすることが効果的であるという気構えをもつことを、前夜研修における「気持ちの準備」での共通のまとめとした。

参加者アンケートでの反応は、参加者および見学に参加した外部有識者共に良好であり、地域振興の業務に携わるにあたって、有益な学びがあったと全員に回答いただいた。

研修終了後半年がたち、全国各地で活動する参加者からは困難な状況に立ち向かいながらも、活動を続けている報告が届いている。また、参加者は朝日町の地域活性化活動にも協力頂いているため、この研修を開催した地域にも、有益な効果をもたらされる事がわかった。

【考察・今後の展開】

参加者の1年間の活動報告を来年2月に開催予定。活動を通して研修での学びが有効であったかを調査予定

【引用・参考文献】

総務省地域おこし協力隊概要

http://www.soumu.go.jp/main_content/000405085.pdf